

15.作品 99.その他
過去と未来 木の間を縫う建築 つながる人と場所

1. はじめに

現在世界各地で異常気象が起きている。この日本でも今までのような四季とは違うリズムを感じている人は多いのではないだろうか。そんな異常気象を起こしていると考えられる地球温暖化を小さい子供から大人までが考えるきっかけが必要なのではないか。自然を美しい、大切な存在だと単純に思えることがまずは第一歩だと思う。建築が自然に及ぼしてきた過去を知ることから始まり、そこから未来をつくり出す何かを感じてほしい。

2. 環境から見た建築

建築は環境に大きな影響を与えると同時に、人々に感動や安らぎを与えてきた。ヒトが誕生する前の地球は豊かな環境に恵まれていたが文明が発達すると共に地球環境は変化し、異常気象をもたらした。その事態を受け、現在世界各地で温暖化対策を行う活動は広く行われ、ビジネスにもなっている。建築から見た環境への意識は深まっている。次のステージは建築が人々に環境へ目を向けさせられるような建築をつくることだと考えた。環境から見た建築は以前とは違って見えることを目標とする。

3. 敷地と方針

敷地は高知県香美市土佐山田町にある高知工科大学にある自然豊かな空き地とそこに隣接する鏡野公園である。設計の方針として「目で見て感じることに重点を置いて、楽しみながらわかりやすく環境の仕組みや建築の過去等を表現する。」ことを挙げる。ここを訪れた子供たちは単純に自然の中で遊ぶことが楽しくなり、歳を重ねるごとに自然の美しさを感じるようになる。

4. 設計

子供の遊び方は時代と共に変化し、自然の中で遊ぶことが当たり前だった時代から家の中で遊ぶことの多い時代になっている。本設計では楽しい場所を自然の中に作り出し、地域住民や大学生との関わりを交えながら遊べる場所・学習できる場所を作り出す。本計画では敷地内の木を一本も切らずに木の間を縫うように設計する。

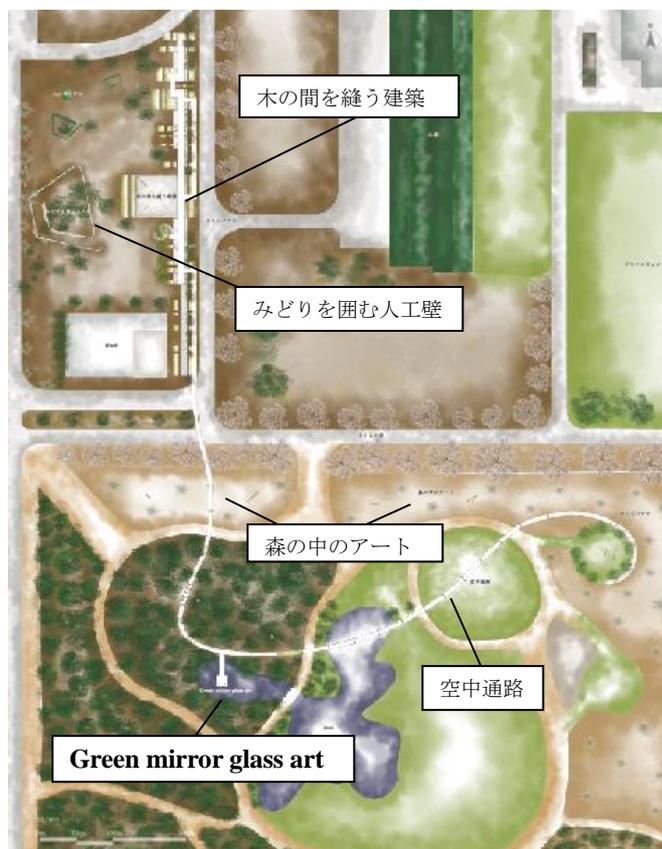


図1. 配置図

4-1. 木の間を縫う、相反する建築

木々の周りに建築を装った人工的な壁で囲んでいる「みどりを囲む人工壁」は、自然環境を考えずに建築をつくりつづけた過去を表現しており、皮肉を込めた建築だ。それに相反して木の間を縫うように建てた「木の間を縫う建築」は自然と共に建築がつけられる理想を表現した。



図2. みどりを囲む人工壁



図3. 木の間を縫う建築

4-2. カーボンニュートラルの仕組みを表現

二酸化炭素を吸収する樹木は地球温暖化を考える上で大きな効果を生み出すことはよく知られていることだ。しかし、樹木は永遠には炭素Cを蓄えてはられない。炭素Cを溜め終わった樹木をエネルギーに変換することが実はとても大切で、そうすることで自然が循環する。この仕組みを伝えるために木々の成長を棒の長さで表し、最後の棒はエネルギー変換装置である薪ストーブの煙突になっている。



図4. 仕組みを表現 (学習室断面)



図5. 概念図

4-3. コンポスト

大学には多くの落ち葉が落ちている。しかしそれは活用されないまま処分される。そんな落ち葉や生ごみを堆肥に変換するコンポストをつくり、近隣の小学生と大学生が地域住民に協力を呼び掛けたりして定期的手入れを行い、堆肥をつくる。出来上がった堆肥は大学や公園内に使用し、元気な植物をつくる。



写真1. コンポスト

4-4. 空中通路と Green mirror glass art

色々な人が集まる鏡野公園と大学をつなぐ空中通路は自然の中をいつもと違った視線で歩くことができる。池の上や木々の中を歩くことで自然をより身近に感じることができる。歩いていくと Green mirror glass art という展望台がある。それはミラーガラスで覆われており、外から見ると自然の中に人が消えたように見える。地球誕生時には自然だけでヒトがいなかったことを示唆している。



写真2. Green mirror glass art

4-5. 森の中のアート

自然はあるのに人が入り込むことが少ない公園内の森。それは森の中に入るきっかけがないからだ。そのきっかけづくりのひとつとしてアートを提案する。参考にしたのはチェ・ジョンファ氏のアート作品、『あなたこそアート』だ。これは額縁のなかに自分を納めることで自分自身がアートになるというものだ。これを参考に「遊べる椅子」をつくった。アート作品として写真で遊んだり、ベンチとして利用することもできる。春には桜がきれいに咲くので花見の際にも利用できる。



写真3. あなたこそアート

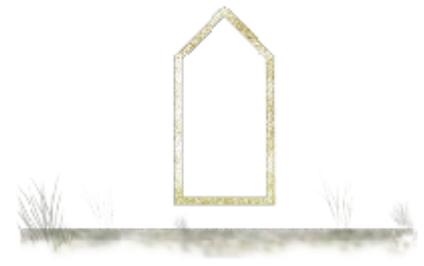


図6. 遊べる椅子

5. 子供たちと大学生をつなぐ

空中通路でつながれた地域住民の公園と大学は場所だけでなく人同士も活動でつながる。上記で述べたコンポストで堆肥をつくる活動をはじめ、学習室では高知工科大学のボランティア活動で行われている小学生への本の読み聞かせを行う。そして自然の中に設置されたテーブルではまわりに落ちている木の実でリースづくりなどを行う。子供たちと大学生、そして地域住民のつながりを持たせ、自然と触れ合える場所ができた。



写真4. 学習室



写真5. 自然の中のテーブル

6. 未来の建築

現在の建築業界では 2020 年新築建物の省エネ基準義務化が決められており、ハードによる省エネ対策が義務化されるなど世界各地でハードによる温暖化対策が行われている。環境に多大な影響を及ぼしてきた建築がソフトによる温暖化対策を行えるのかを本設計では考えてきた。過去を知り、建築の新たな試みにより未来をつくる時代にきている。